
令和6年度 事業計画書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)



学校法人 日本医科大学

目次

	頁
I 法人	1
II 大学	1
1 日本医科大学	1
2 日本医科大学先端医学研究所	3
3 日本獣医生命科学大学	4
III 専門学校	5
日本医科大学看護専門学校	5
IV 病院・クリニック等	5
1 日本医科大学付属病院	5
2 日本医科大学武蔵小杉病院	7
3 日本医科大学多摩永山病院	8
4 日本医科大学千葉北総病院	9
5 日本医科大学腎クリニック	9
6 日本医科大学呼吸ケアクリニック	9
7 日本医科大学健診医療センター	10
8 ワクチン療法研究施設	10
V 各センター	11
1 国際交流センター	11
2 知的財産推進センター	11
3 ICT推進センター	12
4 研究統括センター	12
5 しあわせキャリア支援センター	13
VI 法人本部(管理部門)	14

I. 法人

(1) 改正私立学校法施行に伴う体制整備

令和 7 年 4 月 1 日の改正私立学校法の施行に係る寄附行為変更認可申請及び同法に基づく内部統制システムの整備を行う。

(2) 日本医科大学医療健康科学部看護学科（仮称）設置計画の推進

令和 7 年 3 月の設置認可申請及び令和 8 年 4 月の開設に向けた諸手続き、学生募集及び入試関連の準備や開設後の学部運営に関する計画を進める。武蔵小杉キャンパス再開発計画において、武蔵小杉 B 街区では簡易立体駐車場解体工事を完了させると共に、教育施設新築工事に着手し、同 C 街区では隣接基盤整備工事を進める。

(3) 日本医科大学八重洲健診ステーション設置計画の推進

日本医科大学八重洲健診ステーションの開設に向けた設置計画を策定する。

(4) 多摩永山地区再開発計画の推進

多摩永山病院の建替えについて検討を進める。

II. 大学

1 日本医科大学

（基本方針・中長期ビジョン）

機動的・戦略的な大学運営と新時代の医科大学創造を推進し、体系的で充実した教育課程を編成・実施する。社会の変化に対応した教育研究を展開するため、教育研究組織や事務組織を効果的に再編・整備する。研究支援体制の充実を図ると共に、学生生活全般にわたり、きめ細かな支援を実施し、他大学や地域社会との連携を強化する。

(1) 新テクノロジー時代を見据えた教育システムの構築・充実

VR コンテンツ、e-learning コンテンツ及び LMS 等を活用した教育の更なる推進を図り、VR コンテンツを活用するための企画を検討する。DX を見据え、メタバースの開発、BIG PAD の更新、国際水準を確認できる教育コンテンツの導入等、次のステージを目指す。

(2) 医学教育センターの充実・強化

国家試験対策として第 6 学年の成績下位者を中心に行っている教育指導について、低学年の段階からのサポートを行うと共に、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）上位者等への支援やプログラム提供の充実を図る。

(3) 図書館機能の強化・高度化

研究者データベース（RDB）の登録内容を充実させ、機関リポジトリ（IR）のコンテンツを増強する。ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）事業において、支援選定の一評価として研究業績分析を行う。ICT 環境充実のために、図書館内 PC エリアの改修を行う。

(4) 研究部共同研究施設の改革

施設・整備機器等の更なる環境整備を行うため、ラボスペースの有効的な活用方法を検討すると共に、研究体制の高度化に向けた再構築を推進する。

(5) 千葉北総キャンパスにおける教育・研究機能の充実

千葉北総キャンパスにおける法医学と共同研究施設千葉北総病院研究室との連携を構築し、施設の有効利用を含む更なる環境整備を行う。

(6) 新カリキュラムの構築

令和 5 年度に導入した新カリキュラムと旧カリキュラムとの並行稼働と経過措置を適切に行うと共に、令和 4 年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムとの整合性調査の結果を踏まえ、カリキュラム委員会等で点検を行い、重複や編成漏れ等について対応する。

(7) 多様な入学者選抜試験の実施

令和 6 年度入試から導入したグローバル特別選抜及び学校推薦型選抜、一般選抜、地域枠選抜及び地方会場の運営について、引き続き円滑に実施する。

(8) 大学間連携の拡充

関東次世代のがん専門医療人養成プラン（代表校：筑波大学）及び保健医療分野における AI 研究開発加速に向けた人材養成プロジェクト（関連校：東北大学）の推進のみならず、早稲田大学及び東京理科大学との合同シンポジウムや各種勉強会の開催、共同研究及び研究配属による研究の実施等、大学間連携の拡充を図る。

(9) 高大接続連携の強化

高大接続連携協定校との協定に基づき、引き続き連携強化を推進する。

(10) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）補助事業の推進

女性研究者が研究代表者として取り組む共同研究に対する支援や多様なライフイベントを抱えながら研究活動を行っている研究者に対する支援等、女性研究者の活躍を促進する取組みを継続する。「講師（教育担当）」及び「准教授（教育担当）」の任用制度を活用し、女性上位職を増員する。

(11) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）補助事業の推進

飛躍的女性上位職登用プロジェクトチームが中心となり、優秀な女性研究者への研究費支援による研究力の強化、研究実績の積上げにより上位職へのキャリアアップを支援する。また、ポストアッ

ブ教員制度や「教授（教育担当）」の任用制度を活用し、女性研究者の上位職への積極的登用に向けたポジティブアクションを推進する。女性及び若手研究者に対する研究力向上に向けた研究スキルアップ支援やキャリア形成に関する支援を継続する。

(12) 電子黒板（BIG PAD）の更新

本学の目指す未来型医学教育ツールの中心として、既存の BIG PAD 約 50 台を新しいものに更新する。機種選定に関しては、教務部委員会等でのデモンストレーション、プレゼンテーション等を行い、性能面・価格面から適切なモデルを選定する。

(13) 武蔵境キャンパス教育施設の再構築

新カリキュラムでの授業形態に合わせて武蔵境校舎 E 棟物理実習室の改修を行い、施設の有効活用を図る。

(14) 教員の活動と能力開発の推進

教員活動の質をより客観的に評価するために「ティーチング・ポートフォリオ」の活用を推進する。FD、SD の充実を図り、教員の参加度を高める。

2 日本医科大学先端医学研究所

(基本方針・中長期ビジョン)

日本医科大学における学術的及び経済的な貢献を考慮した当研究所の将来構想を明確化し、臨床との橋渡し研究体制の構築及び他大学や他研究機関との連携強化を図ると共に、研究成果を広く社会に還元する。

(1) 研究部門における将来計画の策定

ゲノム医学部門の将来計画を策定する。

(2) 研究体制の構築

日本医科大学新テクノロジー医学教育プロジェクトの取組みを基に、日本医科大学附属 4 病院の臨床部門との共同研究を実施し、臨床部門との橋渡し研究体制を構築する。

(3) 共同研究の推進

他大学、他研究機関及び民間企業との共同研究を推進し、連携を強化する。

(4) 外部資金の獲得

公的研究費及び競争的資金について、申請件数及び採択件数の増加を図り、当研究所の更なる発展を目指す。

3 日本獣医生命科学大学

(基本方針・中長期ビジョン)

伝統を継承しつつ、現代社会のニーズに応えるために、日本獣医生命科学大学の強みを生かすための改革を実行する。受け手にとっての良い教育を提供することができるよう、教育力の向上、カリキュラムの改訂、組織の見直しを行う。本校、第二校舎、牧場における教育研究施設及び福利厚生施設の長期的な建設計画を立案し、それを実現するための財政状況の改善を図る。コロナ禍で失われたアットホームな大学を取り戻すために、学生支援を強化する。

(1) 応用生命科学部を中心とした学部学科の改組

学部学科の将来を検討するワーキンググループにおいて改革案を作成すると共に、文部科学省大学・高専機能強化支援事業「学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン等）への転換等」へ応募するための計画案を作成する。

(2) 教養・教職に関する組織の新設

学科横断的な共通教育やライセンス教育を担う「基盤教育センター」の設置準備ワーキンググループを中心に、運用に向けて体制を整備する。

(3) 動物医療センターの収支向上

土曜診療の充実、診療費の改定及び原価・物品管理の徹底等を行い、収支向上を図る。動物医療センタースタッフの意識改革と資質向上のための取組みを引き続き行うと共に、モチベーションを向上させる方策を立てる。診療件数を増加させるための取組みと非臨床系教員が病院業務に協力できるシステムの構築を行う。動物医療センターを中心として、寄付金や補助金等、動物医療センターの充実のための資金獲得を目指す。

(4) 富士アニマルファームの再構築

獣医学教育評価の結果に基づき、産業動物教育の充実に向けた改善を図る。産業動物の二次診療施設に対する需要調査を行い、規模や設置場所、人員配置等について計画を立てる。酪農生産を維持し、生乳を用いた製品のブランディングを図ると共に、富士アニマルファームの目的を明確化し、全体の土地利用計画を立案する。富士アニマルファームを用いた研究や教育により外的資金の獲得を目指す。

(5) 第二校舎の建替えに向けた取組みの推進

計画案作成のための調査を行い、東京都及び武蔵野市との協議を引き続き進めると共に、建替えのための資金調達を進める。

(6) 老朽化したD棟に代わる獣医学棟の建設計画の推進

既存の学内施設の整備、新獣医学棟構想の具体化及び資金調達を進める。

(7) 福利厚生施設の充実と学生支援

2・3号棟跡地について、学生の福利厚生に繋がる整備を行う。

(8) 大学院改革と研究支援

複数の指導教員による大学院指導や遠隔講義の活用等、大学院教育の見直しと受験者数・学生数の増加に向けた取組みを引き続き実施する。生命科学総合研究センター実質化のための資金調達を進めると共に、重点研究の支援を継続し、大学ブランド力の向上を図る。

Ⅲ. 専門学校

日本医科大学看護専門学校

(基本方針・中長期ビジョン)

心身共にたくましく、主体的に学習に取り組むことができる優れた人材を受け入れる。コンピテンスの獲得に向けて、学年ごとに目標に達成するよう学生を支援する。高い実践能力を有する看護人材を育成するために、教育環境を整えると共に、教員の教育力を向上させる。

(1) 教育内容の充実

学修支援システム及び教務システムを活用し、教育活動を効果的・効率的に実行する。ICTの充実と積極的な活用により学修効果及び授業満足度の向上を図り、シミュレーターの活用により実践力を高める教育を展開する。

(2) 計画的な施設修繕

施設の経年劣化に伴う校舎外壁の修繕（補修工事）を行い、安全な学校運営を図る。

(3) 広報活動の充実

高校主催の進路相談会及び学校説明会に多数参加し、本校についてPRすると共に、高校生向け進学情報誌を通して認知度の向上を図る。令和8年度用学校案内パンフレットを新たに制作し、リニューアルしたホームページにおいて、SNSを活用した学校案内の発信を行う。

Ⅳ. 病院・クリニック等

1 日本医科大学付属病院

(基本方針・中長期ビジョン)

新規事業の遂行、経営指標の定期的チェック、課題解決に向けた検討及び業務改善活動の推進により経営基盤強化の体制を確立する。

(1) 効率的な病床運用

効率性及び安全性の観点から、1年に1回各診療科の稼働状況を評価し、適切な病床管理を行う。診療科別の稼働状況を評価し、利用率が一定基準（85%）に満たない診療科と100%を超える診療科の定数を見直す。退院日の前日までに確実に退院情報を把握することにより、予定入院・緊急入院・本館5階S総合診療科（5S病棟）からの転出を円滑にコントロールする。5S病棟で午後からの緊急入院を終日受け入れられるよう、5S病棟とベッドコントロールを交えて体制を整える。

(2) 医療連携の更なる強化

紹介・逆紹介を推進するため、医療機関への訪問、懇親会の開催及び医療連携ネットワーク（カルテ公開）の参加医療機関の拡充を図る。令和あらかわ病院との連携体制を整備・強化する。

(3) 新規医療技術の拡大

ダヴィンチをはじめとした新規医療技術の実施に向けた体制を整備する。

(4) 血栓回収脳卒中センターの認定

日本脳卒中学会から血栓回収脳卒中センター（PSCコア）として認定を受け、都内の脳卒中基幹病院としての責任を果たす。また、厚生労働省から指定を受けて東京脳卒中・心臓病等総合支援センター病院として、患者支援のためのネットワーク構築と都内の脳卒中搬送システム構築に向け尽力する。

(5) 病院機能評価一般病院3の次期受審準備

病院機能評価一般病院3の認定更新に向けて、次回の中間審査及び本審査受審に備える体制を整備する。

(6) 医師の働き方改革の推進

医師の業務負担軽減に向けて就業管理システムの適正な運用を図る。

(7) 改正感染症法の施行に伴う東京都との協定締結

東京都と協議し、新興感染症に対応するための協定を締結する。

(8) 医療におけるDXの検討と準備

オンライン資格確認の導入に伴う課題及び電子処方箋について検討し、導入に向けた準備を進める。厚生労働省の「勤務医の労働時間短縮の推進」による補助金を利用した医療DX、文部科学省の「大学病院改革プラン」の人員構想改革を想定した各種DX化を推進する。看護師の業務効率化に向けた勤務表自動作成ソフトの導入について検討する。

(9) 看護師の人材確保の強化

学校訪問、看護系大学主催の就職説明会及び東京都ナースプラザ就職支援事業への参加やインスタグラムの活用、多様な働き方の提示による中途採用の継続により、看護師の人材確保を図る。

(10) インバウンドの実施

外国人患者の受入れ体制を構築し、受付窓口へのスムーズな取次ぎを行う。

2 日本医科大学武蔵小杉病院

(基本方針・中長期ビジョン)

大学病院及び川崎南部医療圏の中核病院としての役割・使命を果たし、周産期・小児・救急・周術期の医療を重点化する。「ユニバーサル・機能集約・実用本位」を念頭に置いた施設設計により、安全で高品質な医療を提供できる病院を整備すると共に、医療資源を重点的に活用する外来を基幹的に展開する。

(1) 地域医療への貢献

川崎南部の中核病院として最新機器（最新のハード面）を生かすと共に、計画的な医療機関訪問や各種セミナー等の開催を通して地域医療機関との連携強化を図り、紹介患者及び逆紹介患者の増加を目指す。

(2) 救急・総合診療センターを中心とした救急機能の充実

断らない医療の実践を具現化し、受入病床の確保と働き方改革を両立させた診療体制の構築、後方支援体制の強化及び人員の確保を行い、応需率の向上及び対応件数の増加を目指す。

(3) 周産期・小児医療の充実

川崎市周産期医療ネットワークの一員及び川崎市からの委託を受け毎夜間に小児科の診療を行う中部小児急病センターとして、より一層の周産期・小児医療の充実を図り、産科 28 床、小児科 30 床の専用病床、分娩室 5 室、NICU15 床、GCU6 床及び専用外来において地域に根差した安心・安全な医療を提供する。

(4) 高度医療を提供できる周術期機能の充実

中央手術室の 7 部屋、口腔科（周術期）、麻酔科管理リカバリー室の設置と ICT、栄養科、PSC 及び医療連携室等病院全体で構成するチーム医療により、当院の特徴の一つである周術期機能の更なる充実を図る。

(5) 医療安全管理・感染予防管理の徹底

院内における全ての業務に対してインシデント・アクシデント事例報告の徹底を図ると共に、日々分析を行うことにより同様の事象が発生しないよう管理する。

(6) 入退院・患者支援センター（PSC）の充実

患者支援センター業務のスピードアップと接遇対応の向上により、患者・患者家族が安心して入院・治療を続けられる環境を整備する。

(7) 内視鏡外科におけるダヴィンチの更なる充実

ダヴィンチを用いた手術について、消化器外科及び泌尿器科での実績を積み上げると共に、他の診療科においても積極的に実施する。

3 日本医科大学多摩永山病院

(基本方針・中長期ビジョン)

南多摩地域の基幹病院として地域医療に貢献すると共に、地域連携の整備を図る。新病院建設に向けてソフト面の充実を図り、安定した経営を継続できる下地作りを行う。

(1) ハイケアユニット病棟の効率的運用

C4 病棟は術後患者、B5 病棟は脳卒中患者を中心に運用し、特定入院料算定率を上げる。

(2) 各種検診事業への参画

多摩市の各種検診事業（大腸がん、乳がん、子宮頸がん、前立腺がん、胃がん等）に積極的に参画する。

(3) 医療連携の強化

南多摩医療圏における医療機関に対し、広報活動及び訪問によりロボット支援下手術等のアピールを行う。

(4) 新規医療技術の充実

ロボット支援下手術システムについて、新規患者の積極的な受入れと外科系の若手医師、専攻医及び研修医の技術向上を図る。

(5) 医療 DX の導入

オンライン資格確認システムを利用し、患者来院前に情報を把握する。電子処方箋システム導入について検討する。

(6) 看護職員の人材確保の強化

多摩地区の看護大学及び専門学校を対象として就職説明会を実施し、看護師寮の補助・奨学金・準備金（多摩永山病院ルールを設定）についての周知を通して新規入職希望者の増加を図る。

(7) 医師の働き方改革の推進

就業管理システムを導入し、医師の時間管理及び日当直管理の徹底を図る。

(8) 病院機能評価一般病院 2 受審に向けた体制整備

病院機能評価一般病院 2 の認定更新に向けて、中間審査及び本審査に備える体制を継続する。

4 日本医科大学千葉北総病院

(基本方針・中長期ビジョン)

地域中核病院としての機能を基盤に、ドクターヘリ事業を最大活用した「救命救急、急性期脳卒中、循環器救急等の高度急性期医療」を展開し、がん診療連携拠点病院としての優れた治療実績を蓄積し診療実績を向上させると共に、国際医療の充実を図る。

(1) ドクターヘリ事業による高度急性期医療の展開

CCM/ICU を機軸とした高度急性期医療を展開する。新型コロナウイルス感染症患者の受入れについては一般病棟とし、CCM1 はハイケアユニット病棟として運用を開始する。

(2) がん診療連携拠点病院の指定に伴う診療実績の向上

がん診療連携拠点病院の指定に伴う手術件数及び外来化学療法の向上、緩和ケア診療実績の強化、遺伝子外来・がん周術期サポート外来等の更なる充実と各種加算要件の充足を図る。

5 日本医科大学腎クリニック

(基本方針・中長期ビジョン)

日本医科大学付属病院腎臓内科との連携協力を基本原則とした上で、紹介実績のある医療機関や新たな医療機関との連携を強化する。

(1) 血液透析の維持強化

外来透析患者及び外来透析導入患者に向けて、付属病院腎臓内科外来、同診療科で定期的に行われる区民公開講座（腎臓病教室）及び他医療機関との連携を通して当クリニックの周知を図る。

(2) 日本医科大学付属病院腎臓内科等との連携強化

特殊血液浄化療法患者及び腹膜透析患者等の積極的な受入れに向けて、付属病院腎臓内科、消化器・肝臓内科、糖尿病・内分泌代謝内科、皮膚科及び血液浄化療法センターと連携を図る。

(3) 骨粗鬆症診断と治療の実施

通院患者へ定期的に骨塩定量検査を行い、骨粗鬆症と診断された患者に対して投薬・注射治療等を行う。

6 日本医科大学呼吸ケアクリニック

(基本方針・中長期ビジョン)

「都心にある大学病院専門外来」としてサテライトクリニックの機能を果たす。

(1) サテライトクリニック機能の充実

日本医科大学付属病院との連携を強化すると共に、サテライトクリニックとしての機能の充実を図る。

(2) 外来化学療法の実施

外来化学療法を実施し、急性期を含めた総合的な呼吸ケアを行う体制を整備する。医療コーディネーターを介して海外からのセカンドオピニオン及び診療患者を積極的に受け入れる。

7 日本医科大学健診医療センター

(基本方針・中長期ビジョン)

大学病院に付属する画像検査センターとして、画像診断における臨床・研究に寄与すると共に、その特性を生かして予防医療の充実のため、健康診断・治験事業を行う。

(1) PET 検査の推進

日本医科大学付属病院との連携やアミロイド PET 検査の本格稼働により、外国人受診者をはじめとして積極的な検査実施を目指す。

(2) 現有治験事業の継続

アルツハイマー治験検査を継続すると共に、新たに開始される放射性治療薬の製造委託を積極的に推進する。

8 ワクチン療法研究施設

(基本方針・中長期ビジョン)

免疫療法の研究と SSM(丸山ワクチン) 有償治験の基幹施設として、他施設との連携と SSM についての周知を図る。

(1) 他施設との連携

他医療機関や他研究施設と連携し、免疫療法としての SSM の有用性について理解促進を図る。

V. 各センター

1 国際交流センター

(基本方針・中長期ビジョン)

外国人留学者の支援・諸手続きの整備及び海外留学の更なる活性化・支援を通して本法人の国際化に貢献する。

(1) 外国人留学者の受入れ

外国人留学者の生活面等での支援、国際交流会館の維持・管理、外国人留学者研究発表会 (International Research Conference) の開催、様々な交流活動の企画・開催及び外国人留学者受入部署に対する研究・研修上の教育経費の支給を行う。外国人留学者に奨学金を支給し、経済的支援を行う。

(2) 外国の大学との学術交流等の促進

協定校との協定関係の一層の強化を図ると共に、新たな協定校及び協定機関の開拓により日本医科大学及び日本獣医生命科学大学の学生の留学促進に寄与する。

(3) 日本医科大学医学部生に対する助成

日本医科大学医学部生の国際交流活動に対して助成金を支給する国際交流助成金制度や留学希望者への海外留学奨学金制度により、学生の国際交流に関する経済的支援を行う。

(4) 帰国した外国人留学者のフォローアップ

インターネット上の仮想空間 (メタバース) 等を利用し、過去に日本医科大学又は日本獣医生命科学大学に留学経験のある外国人留学者による同窓会を企画・開催する。

2 知的財産推進センター

(基本方針・中長期ビジョン)

日本医科大学及び日本獣医生命科学大学の研究支援及び知的財産権の創出支援を行い、本法人における知的財産の活用に向けたマネジメントを強化する。

(1) 知的財産に関する発明の発掘、権利化及び実用化

研究統括センターのリサーチアドミニストレーター及び外部弁理士の支援を受けて、教職員の研究シーズから発明を発掘すると共に、教職員に対する産学連携活動についての啓発を行う。本法人の「発明の評価基準」に沿った評価及び維持活動を行うと共に、同基準の見直しを図る。新規ライセンス契約に向けたライセンス先の探索、交渉及び契約締結を行う。

(2) 産学官連携の推進

日本医科大学及び日本獣医生命科学大学の研究推進課との連携により、研究支援業務を推進する。研究会等の活動を通して情報収集を行い、他研究機関との連携を図る。

3 ICT推進センター

(基本方針・中長期ビジョン)

本法人のICT最適化と情報ガバナンスの強化を図る。

(1) ICT 中長期計画の遂行

大学 ICT3 か年計画及び医療情報システムに関する中期計画の見直し及び実行を推進する。

(2) 情報セキュリティ管理の強化

経年使用したセキュリティ機器を更新すると共に、病院における医療情報システムに関する脆弱性の有無を確認する。

(3) システム統一による業務の効率化

病院における統一した各種システムに対して、保守・運用を見直し効率化を図る。

4 研究統括センター

(基本方針・中長期ビジョン)

治験の実施、特定臨床研究を含む臨床研究の実施基盤整備と振興を図り、研究に関するリスクマネジメント体制を構築する。

(1) 治験の推進

治験業務の推進を図るため、日本医科大学附属4病院の手続き等の統一、手順書・契約書の雛形の見直し、IRB 電磁化及び当センターの人材の育成を行う。

(2) 臨床研究管理の効率化

法人全体の倫理審査について、倫理審査システムを本格導入し、業務の効率化と当センターの体制の充実を図る。

(3) 研究リスクマネジメント体制の構築

基礎・臨床研究契約の円滑な締結手続き及び利益相反マネジメントに関する業務を行う。法人全体における感染性病原体等安全管理規程及び公的研究費不正防止計画の見直しを図り、研究リスクマネジメント体制を構築する。

(4) 法改正等に関する体制整備

臨床研究法改正に関する情報収集及び現行法への学内対応について点検を行う。

(5) 研究支援体制の構築

リサーチアドミニストレーターが日本医科大学及び日本獣医生命科学大学の研究推進課と連携して研究支援を行うと共に、知的財産推進センターと連携して発明発掘を行う。

(6) ベンチャー支援体制の構築

ベンチャー支援体制の構築に向けて、ベンチャーに関する規程を制定する。

5 しあわせキャリア支援センター

(基本方針・中長期ビジョン)

ダイバーシティへの理解を深め、多様な人材を受け入れ活用できる組織を構築し、女性医師・研究者のライフイベントとキャリア形成との両立を支援する。

(1) ダイバーシティ研究環境の整備

育児・介護と研究との両立支援として研究支援員配置制度及び共同研究への研究費補助を実施する。ベビーシッター派遣病児保育支援事業の法人契約の見直し及び保育支援制度の検討を行う。女性大学院生を対象とした学内フェロシップ制度及び5年後キャリアサポート制度等により、女性・若手研究者が研究に専念できる環境を提供する。ダイバーシティ及びイクボスの推進に関する意識向上を図るための講演会やシンポジウム等を開催する。

(2) 女性研究者の研究力向上及びリーダーの育成

国際学会発表助成制度及び女性研究者海外研修助成制度(ダイバーシティ支援)により女性研究者の海外での研究活動を支援する。外部研究費の獲得に向けたセミナー等、研究スキルアップ及び研究力向上に向けた講習会やセミナー等を開催する。優秀な女性研究者への研究費支援による研究力の強化及び研究実績の積上げにより、上位職へのキャリアアップを支援する。

(3) 女性の上位職への登用の加速

飛躍的女性上位職登用プロジェクトチームが中心となり、ポストアップ教員制度等を活用し、女性研究者の上位職への積極的登用に向けたポジティブアクションを推進する。

(4) 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」の中間評価実施

中間評価成果報告書の作成とヒアリング審査に向けた準備を滞りなく進める。

VI. 法人本部(管理部門)

(1) 法人全体の収支改善に向けた予算編成及び財務戦略の策定

法人全体の収支改善の達成に向けた予算編成と財務戦略を策定する。原価計算システムを利用し診療科別収支の分析を行い、医療の質の向上と経営基盤の確立を図る。診療科別の予算に対する到達度を毎月モニタリングし効果測定を行うと共に、DPCによる医療収益に対して医療資源投入量が適正であるか、分析ソフトを用いて効果検証を行う。

(2) 人材の有効活用及び有為な人材確保の実施

社会情勢や他私立医科大学の情報に鑑み、本給表及び諸手当等について検証する。ハラスメント教育の充実を図り、職員の保有資格情報等の管理、障がい者雇用の促進、応募者の動向に応じた日本医科大学附属 4 病院の看護師の採用、社会人経験者及び高年齢者の活用を踏まえた事務職員の採用を行う。人事・給与システムの更新又は新システムの導入について検討すると共に、人事評価システムの導入に向けた検証を行う。新学部設置及び裁量労働制導入等に伴う人事関連規則の整備を図る。

(3) 施設設備の整備

法人全体の施設設備について、長期的な計画に基づいた整備を推進する。前年度に着工した千駄木 3 号館の新築工事を完了させ、附属病院臨床研究総合センターの移転を完了させる。

(4) 安全保障輸出管理体制整備の支援

日本医科大学及び日本獣医生命科学大学の安全保障輸出管理体制の整備に向けて、両大学の関係部署を支援する。